

## 待降節第二主日

(ルカ 3:1-6)

2012年12月09日

イエズス会司祭 小暮康久

待降節に入り、今週と来週の福音では、洗礼者ヨハネについて書かれた箇所が朗読されます。それは、洗礼者ヨハネが、「キリストの先駆者」として、救い主イエス・キリストの到来を準備した人物であり、同時に、主の救いの到来を待ち望み続けた「旧約の時代の最後」を象徴する人物でもあるからです。その意味でも、主の降誕を待ち望むこの待降節に、洗礼者ヨハネを思い起すことは、私たちにとってふさわしい準備となると思います。

そして、今日の福音では、その洗礼者ヨハネの宣教の姿が、イザヤ書の預言の実現であることが語られます。今日は、このイザヤ書の預言に注目して、この預言と洗礼者ヨハネの関係を確認しながら、旧約聖書の時代から待ち望み続けた「救いの到来」の意味をご一緒に味わってみたいと思います。

今日の福音書では次のように語られます。

これは、預言者イザヤの書に書いてあるとおりである。「荒れ野で叫ぶ者の声がする。『主の道を整え、／その道筋をまっすぐにせよ。谷はすべて埋められ、／山と丘はみな低くされる。曲がった道はまっすぐに、／でこぼこの道は平らになり、人は皆、神の救いを仰ぎ見る。』」

この言葉は、イザヤ書 40:3-5 からの引用なのですが、正確に言うと、ギリシア語七十人訳聖書のイザヤ書 40:3-5 からの引用ということになります。というのは、この冒頭の箇所について、ヘブライ語聖書とギリシア語七十人訳聖書の間にはちょっとした「違い」があるからです。このことは、この預言と洗礼者ヨハネとの関係、あるいは、旧約聖書と新約聖書との関係を考える上で大切なポイントになってきますので、後でもう一度お話しますが、まずはこの預言そのものを味わってみたいと思います。

現代の聖書学の研究から、イザヤ書全体は、その内容から三つの大きなまとまりに分けることができると考えられています。1～39章の「第一イザヤ」、40章～55章の「第二イザヤ」、56～66章の「第三イザヤ」で、それぞれが、違った時代背景を持っていると考えられています。今日の預言は、イザヤ書 40:3-5 ですから、ちょうど「第二イザヤ」と呼ばれるイザヤ 40章～55章の冒頭部分に当たるわけです。では、少しだけこの「第二イザヤ」の預言の背景を確認してみたいと思います。

「第二イザヤ」が活動を始めたのは、歴史的には、「バビロン捕囚」の末期であると考えられています。BC722年のアッシリア帝国による北イスラエル王国の滅亡後も、なんとか存続していた南ユダ王国を、前587年、旧約聖書の歴史、イスラエルの歴史における最大の事件が襲います。バビロニア帝国によってエルサレム神殿が破壊され、南ユダ王国は滅ぼされ、指導者層の多くが捕えられて、バビロニアの首都バビロン郊外に強制移住させられるという、いわゆる「バビロン捕囚」が起こるのです。そして、この捕囚状態は、前538年、新興国ペルシアの王キュロスによってイスラエルの民が解放されるまで、約50年間続きます。

「第二イザヤ」は、解放の 때가近いことを捕囚の民に告げ知らせ、彼らがエルサレムを中心とする祖

国イスラエルに帰還することを、「新しい出エジプト」として語り、強くこの帰還を促します。これが「第二イザヤ」の使信、メッセージの中核となっています。それ故に、「第二イザヤ」の言葉は概して慰めや励ましに満ちた救いの言葉となっています。

ですから、「第二イザヤ」の冒頭、つまり今日の福音に引用されている 40:3-5 の直前の 1-2 では、次のような言葉が語られます。

「(あなたがたは) 慰めよ、(あなたがたは) 慰めよ、わたしの民を、とあなたたちの神は言われる。エルサレムの心に語りかけ／彼女に呼びかけよ／苦役の時は今や満ち、彼女の咎は償われた、と。罪のすべてに倍する報いを／主の御手から受けた、と。」

ここで「あなたがた」と呼びかけられているのは、天上の会議（カナンの表象に由来）に列席する天使たちです。この 1-2 は、天使たちへ向けて神が語った言葉として解釈されるわけです。つまり、この言葉は、捕囚の身となったイスラエルの民を解放するという神の宣言であり、「歴史に介入して」イスラエルの民を解放するという天上の会議での神の決断の言葉なのです。

このような背景の中で、今日の福音の中の引用の言葉が語られるのです。「歴史に介入して」イスラエルの民を解放するという神の決断と宣言を受けて、何者か（ここでは、その神の宣言を受けとった天使たちでしょうか）が叫ぶのです！

『主の道を整え、／その道筋をまっすぐにせよ。谷はすべて埋められ、／山と丘はみな低くされる。曲がった道はまっすぐに、／でこぼこの道は平らになり、人は皆、神の救いを仰ぎ見る。』

「今や救いは実行に移されようとしている！解放されたイスラエルの民が、異邦の地バビロンから、主の約束の地、祖国イスラエルへ帰還するために通る「道」をそのように「まっすぐに平らな道」にせよ！」という天使たちの叫びです。

もちろん、ここで言われている「道」とは、直接的には、物理的な「道」を意味しているでしょう。なぜなら、「異邦の地バビロン」と「祖国イスラエル」の間には広大な道なき「荒れ野」が広がっていて、そのままでは、イスラエルの民は帰還することはできないからです。「まっすぐに平らな道」の実現は、現実的にも祖国イスラエルへの帰還の実現を象徴するものだからです。

しかし、同時にこの「道」は、その罪・咎のために「捕囚」という苦役を体験したイスラエルの民が、もう一度、真っ直ぐに神へと立ち返るその信仰の態度、神へ向かう心の中の「道」をも意味しているとも言えるでしょう。その意味では、この言葉は、「イスラエルの民よ、あなたがたの心の中の道を、神へと立ち返るその心の道をまっすぐにせよ！」という天使たちの呼びかけでもあるのです。つまり、捕囚からの解放、祖国イスラエルへの帰還という外的・歴史的な出来事は、同時に、イスラエルの民が、真に悔い改めて、神に立ち返ることの意味を体験した内的・信仰における出来事でもあったというわけです。

これが今日のイザヤ書の引用の背景にある出来事です。そして、この「第二イザヤ」の預言から 500 年の時を経て、この預言が、洗礼者ヨハネにおいて、まったく新しい次元で実現したとルカは語ります。

ここで、先ほどのヘブライ語聖書とギリシア語七十人訳聖書の間のちょっとした「違い」が大切になってきます。その「違い」をお話する前に、ギリシア語七十人訳聖書について少しだけお話しいたします。当時のユダヤ人社会には、パレスチナのユダヤ人だけではなく、既にヘブライ語を話さなくなっていた地中海各地のユダヤ人共同体もありました。そして、そのような共同体では、むしろこのギリシア語七十人訳聖書が聖書として読まれていたわけです。そして、大事な点は、当時、ギリシア語七十人訳聖書は、ヘブライ語聖書と同じように「聖書」としての権威を持っていたということです。そして、主の復活後に誕生し、成長していった初代教会も、このギリシア語七十人訳聖書を通して、今日のイザヤ書の預言に触れていたということです。

ヘブライ語聖書との「違い」は、ご自宅に戻って新共同訳聖書のイザヤ書 40 章を開かれると分かると思います。新共同訳聖書は原則としてヘブライ語聖書から日本語に翻訳していますので、その違いが分かるわけです。ヘブライ語聖書では、「叫ぶ者の声<sup>1</sup>がする。荒れ野<sup>2</sup>に主の道を整えよ！」になっています。一方、ギリシア語七十人訳聖書から引用した今日の朗読は、「荒れ野<sup>3</sup>で叫ぶ者の声<sup>4</sup>がする。主の道を整えよ！」となっているわけです。「荒れ野」が「叫ぶ者」の方にかかっているわけです。ギリシア語七十人訳聖書を通して、この預言に触れていた初代教会の人々は、荒れ野で叫ぶ洗礼者ヨハネが登場した時、そこにこのイザヤ書の預言をまったく新しい次元で実現する預言の成就を見出したのです。

「第二イザヤ」においては、その「道」は、祖国イスラエルへの帰還と、神への立ち返りのための真っ直ぐな「道」であり、それを叫んだのは天使でした。しかし、救い主イエス・キリストの到来という、すべての人にとっての「真の救い」が実現しようとしている今、その「真の救い」の「道」を準備し、まっすぐにせよ！と叫ぶ者が現れた、その人こそ洗礼者ヨハネであり、旧約聖書を遥かに凌駕する形で、イザヤ書の預言が実現したのだ！とルカは語るのです。

救い主イエス・キリストによる「真の救い」は、旧約聖書の預言の成就であり、旧約聖書の約束の実現です。しかその実現は、旧約聖書の見通しを遥かに凌駕する形で実現される、その意味での「新約」であるというのがキリスト教の信仰であり、キリスト教信仰における旧約聖書の意味なのです。

このような例は他にもいくつかあるのですが、私は、ヘブライ語聖書とギリシア語七十人訳聖書の間にあるこのような「変化」さえも、歴史の中に働く神の御摂理だと感じています。

今日の第一朗読の「バルク書」の中にも、あるいは答唱詩編の「詩編 126 番」の中にも、「バビロン捕囚」と関係して、神の救いとその栄光の現れを待ち望む旧約時代の人々の姿が描かれています。

この待降節に、「救い」を待ち望んだ旧約時代の人々の姿を思い起しながら、その期待を遥かに凌駕する形で実現した「真の救い」つまり、救い主イエス・キリストの到来という恵みに心を向け、感謝と賛美をもって、共にこのごミサを捧げて参りましょう。